# 愛知大学 2017 年度 FD 活動総括及び 2018 年度 FD 活動

| 学部等名 | FD 活動 |
|---|---|
| 法学部 | [2017 年度総括]<br>・7 月 13 日教授会終了後、「卒業論文」というテーマで、教学に関する懇話会を実施した。そこでは、卒業論文を執筆する学生の中に剽窃する者がたまに見受けられるため、そのようなことをしないよう、教員としてどのように指導すべきか意見交換を行った。<br>・2 月 15 日教授会終了後、「演習科目の運用見直しについて」というテーマで、教学に関する懇話会を実施した。そこでは、演習の重要性について 1 年生時から繰り返し説明する必要性が話し合われ、意見の一致をみた。<br><br>[2018 年度 FD 活動]<br>・2018 年度も昨年度と同様、教授会終了後に「教学に関する懇話会」を複数回実施する予定である。 |
| 経済学部 | [2017 年度総括]<br>（１）経済学部学外 FD 研修参加状況<br>中京大学「アクティブ・ラーニングとは何かー理論と事例から学ぶー」、東京大学「東京大学 初年次ゼミナールの軌跡と展望」、大学コンソーシアム京都「FD フォーラム」（京都産業大学） ほか参加研修合計 22 件に参加した。<br>（２）経済学部内 FD 学習会<br>2017 年 12 月 14 日（木）教授会終了後に「『学びの技』を用いたスタディスキル向上の事例」を杉浦 裕晃先生に講演していただいた。具体的な活用方法についての質問が出され、多くの教員の関心を抱いた。これを受け、2018 年度より数冊を経済学部教員文庫と講師控室に備えることとなった。<br>2018 年 1 月 26 日（木）教授会終了後に「専門演習の運営」について、竹内晴夫先生に講演していただいた。専門演習担当者を中心に卒業研究の指導等、活発な意見交換が行われた。<br>18 カリキュラム施行に伴い、学習法ガイドブックの活用状況を学習法担当者に確認した。その結果に基づき、改訂版を制作して 2018 年度入門演習ガイドブックとして新入生全員に配布し、活用している。<br><br>[2018 年度 FD 活動]<br>2017 年度 FD 活動と同様に、学部内 FD 学習会を開催し、積極的に外部 FD 研修に参加する。 |
| 経営学部 | [2017 年度総括]<br>・新入生相互の交流や経営学部ガイドブックを用いたきめ細かな履修指導を中心とした新入生歓迎会（4 月 3 日開催）は、経営学科・会計ファイナンス学科から募集した学生スタッフ（学生 FD 委員）の協力もあり、大変盛況であった。学生の視点からより満足度を高めていくことの必要性ときめ細かな履修指導を継続していくことが確認された。<br>・第 8 回教授会（9 月 1 日開催）において、FD 懇話会を行った。懇話会では、学生相談室兼担相談員から学生相談室から見た経営学部生の状況・特徴について報告を受けた。今後も学生の状況について構成員間で情報交換を行い、緊要な問題が生じた際には教授会で取り上げることも視野に注視していくことを確認した。<br><br>[2018 年度 FD 活動]<br>(1)新入生歓迎会の実施<br>・経営学部ガイドブックを用いたきめ細かな履修指導<br>・学生の視点からの満足度を高めるための企画を学生 FD 委員の参加により実施<br>(2)よりよい教育の実現を目指した議論<br>・学修成果アンケート集計結果をもとに、現況を確認、教育上の課題を検討 |

| | |
|---|---|
| 現代中国学部 | [2017 年度総括]<br>・卒業生(ゼミ生)及び新入生のアンケート<br>卒業生(ゼミ生)及び新入生のアンケートは継続して行ったが、2018 年度カリキュラムの細かい運営レベルでの改善に向けて教学検討委員会で検討討議を行うことは達成できなかった。<br>・授業相互見学について<br>原則として一人一回は年度内に他の教員の授業見学を行うこととしたが、合同ゼミ等も含め、達成は３割程度であった。<br>・現代中国学会との連携<br>中日新聞加藤編集委員を招いた現中学会講演会において、現代中国に関わる知識、とりわけ報道の最前線に立つ者しか知り得ない見聞等を聞き、授業の改善につながった。<br>・入門演習ガイドブックの改訂<br>入門演習担当者・既習学生からの意見聴取を実施したが、ガイドブックの改訂には至らなかった。<br>・グローバル人材育成推進後継事業との連携<br>日本社会調査・現地調査、現地インターンシップ等各公開報告会を実施し、学生の主体的な学びを促した。また、さくら 21 科目の整備と実施準備を行い、様々な方面で授業改善に努めた。<br>・MOOC の導入<br>教員の授業公開を行う MOOC の導入を検討するため、学長裁量費を取得し、その具体的な実施方法について討議した。<br>・卒論指導の見直し<br>卒論の指導時期を見直し、カリキュラムに柔軟性を持たせた。<br>・現代中国学部主催研究会の開催<br>科研費間接経費を活用し、外部講師を招聘し 2 回研究会を開催した。<br><br>[2018 年度 FD 活動]<br>・卒業生(ゼミ生)及び新入生のアンケート<br>卒業生(ゼミ生)及び新入生のアンケートを継続して行い、2018 年度カリキュラムの細かい運営レベルでの改善に向けて教学検討委員会で検討討議を行う。<br>・授業相互見学について<br>原則として一人一回は年度内に他の教員の授業見学を行うこととし、各人の授業改善につなげる。<br>・現代中国学会との連携<br>現代中国学会講演会・シンポジウムなどと密接な連携をとり、現代中国に関わる広い知識の獲得・共有をとおして授業改善につなげる。<br>・入門演習ガイドブックの改訂<br>入門演習担当者・既習学生からの意見聴取に基づき、ガイドブックの改訂を行う。<br>・グローバル人材育成推進後継事業との連携<br>日本理解・発信能力の養成、各種事業公開報告会など、グローバル人材育成推進後継事業との連携を通して、様々な方面で授業改善に努める。<br>・動画による授業公開の導入<br>学長裁量費を用い、教員の授業公開を行うための動画を作成し、授業の振り返り、改善に役立てる。 |
| 国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部 | [2017 年度総括]<br>＜英語学科＞<br>・語学の教員同士での授業参観を実施した。<br>・入学時に新入生に英語学習歴についてのアンケートを採り、そのアンケートと入学時に受ける TOIEC の点数を考慮して、英会話のクラス編成を行った。<br>・注意を要する学生について、学科会議でその学生の情報を共有し、授業運営がよりうまくいくようにお互いに助言をした。<br>・新入生に配布する冊子を改訂した。 |

| | |
|---|---|
| | ＜国際教養学科＞<br>学科会議において学科教育に関する意見交換・情報共有（授業運営上の問題や学生の指導のあり方など）を頻繁に行い、必要に応じて対処方法について検討した。こうした取り組みは、課題・問題の早期認識・早期発見を促すものであり、学科として有意義な活動であった。<br><br>[2018 年度 FD 活動]<br>＜英語学科＞<br>・入試課の職員から、現在の入試状況や高校生の動向について説明してもらう。<br>・大学のカウンセラーから、学生の生活状況についての話を聞き、日頃の指導に役立てる。<br>・入学時に新入生に留学経験や英語資格取得状況についてのアンケートを採り、そのアンケートに基づき、入学時に受ける TOIEC の点数を考慮して、英会話のクラス編成を行う。<br>・注意を要する学生について、学科会議でその学生の情報を共有し、授業運営がよりうまくいくようにお互いに助言をする。<br>＜国際教養学科＞<br>１．上記のような学科会議における取り組みを継続し、逐次課題・問題に対処する。<br>２．在学生に対する学科独自のリサーチを実施し、問題点を洗い出す。<br>３．１，２を受けて、特定のテーマを設定した FD 活動学習会・懇談会を実施する。 |
| 文学部 | [2017 年度総括]<br>1.FM 豊橋における文学部の教育・研究内容の提示を通じて、教育のあり方の検討と教員の自己研修<br>2017 年度も引き続き、コース内での複数教員による取り組み、教員と学生によるコースの教育の取り組みの紹介など、専攻の枠を超えたり、教育の現場を紹介したり、アクチュアルなテーマを意識した企画を行った。<br><br>2.人文社会学と現代に関する研究会の実施<br>第 17 回「人文社会学と現代に関する研究会」を以下のとおり実施した。（敬称略）<br>日　時：2017 年 7 月 27 日（木）第 8 回文学部教授会終了後<br>報　告：加藤潤　「ニュージーランドにおける教育改革と新自由主義言説」<br>司　会：下野正俊<br>コメンテーター：樫村愛子<br><br>3.新しい教育のあり方についての検討<br>文科省の教育改革などの文脈を学習し、これに対応する戦略を検討するのは意義がある。アクティブ・ラーニングについて、全学講演会（2017 年 4 月 13 日,「実りあるアクティブ・ラーニングと高大連携を目指して」）の企画を文学部委員が行ったが、その点については文学部ではあまり進められなかった。<br>成果や効果のあった試みは以下の通りである。文学部教員で、授業等で図書館の設備（ミーティングルームや電子黒板）を用いてアクティブ・ラーニング型の授業を行っている例も少なくなく、それについては着実な成果が上がっている。また、現代文化コースは mooc の本格導入、反転授業実施の前段階として授業のビデオ撮影・編集とアップロードを試みた。<br><br>4.文学部教員向け図書館ツアー<br>豊橋図書館を文学部教員によく知ってもらう 7 月 13 日(木)の図書館ツアーの中で、新しく図書館に開設されたラーニングコモンズについても、その利用の方法や機器等について、紹介された。<br><br>5.『改定増補版　文学部の方法』の刊行<br>2018 年 4 月に心理学科が新設となるにあたって、構成を人文社会学科との二学科体制に合わせたばかりでなく、内容の上でも改定と大幅な増補を行い、2018 年 3 月に刊行した。 |

| | |
|---|---|
| | ［2018 年度 FD 活動］<br>1. ラジオ番組「こちら愛大　～アイダイ・ど・文学部の時間～」（FM 豊橋）において文学部の教育・研究内容の提示を行い、教育のあり方の検討と教員の自己研修を実施<br>2. 人文社会学と現代に関する研究会の実施<br>3. 教員の意識向上をはかるため、勉強会等を随時企画<br>4. 文学部教員向け図書館ツアーの実施（Japan Knowledge の使い方の紹介） |
| 地域政策学部 | ［2017 年度総括］<br>2017 年度の地域政策学部の学部 FD 活動は、3 本柱の年度目標を掲げ、概ね遂行することができた。これらの年度目標は、本学部の恒常的に行う FD 活動内容であることから、2018 年度も引き続き、同じ年度目標を掲げ、教員の資質向上を目指したい。<br><br>［2018 年度 FD 活動］<br>＜年度目標＞<br>(1) 演習科目群における授業の改善を図る。<br>(2) 学部開設 7 年の経験をふまえ、学部の特色ある教育の成果を振り返り課題を探る。<br>(3) 教学や学生生活を支える学内のさまざまな取組みを知り、連携する。<br>＜活動方法＞<br>(1) について<br>　担当教員の交流を促進し、教育の質の向上に取り組む。従来の学習法担当者会議、研究法担当者会議に加え、ゼミナールの担当者の経験交流の場を設ける。とくに研究法やゼミナールでのアクティブラーニング、ＰＢＬの経験交流を図る。<br>(2) について<br>①大学間連携共通教育推進事業を進める中で入学前教育、初年次教育の現状や在り方を話し合う。<br>②学生地域貢献事業への支援等を通して見出された地域貢献活動の教育的意義や課題を話し合う。<br>③アクティブラーニングやＰＢＬの取組み成果や課題を話し合う。<br>④キャリア形成支援に取り組む中で、地域に求められる人材養成のあり方を話し合う。<br>(3) について<br>　教職課程センター、学習教育支援センター、図書館、学生相談室、キャリア支援課、学生課、保健室などの担当者各位を教授会に招いて意見交換する。 |
| 短期大学部 | ［2017 年度総括」<br>1. 全学統一フォーマットの授業評価アンケート以外に、短期大学部の必修科目について、それぞれ短大独自の授業アンケートを実施した。<br>2. 初年次教育支援として「基礎演習」の時間に、図書館や大学記念館（東亜同文書院大学記念センター）、語学教育研究室（ランゲージカフエ）等のガイダンスを積極的に活用し、新入生に対して学びの共通化を推進した。<br>3. 教育環境や学生生活の改善・向上を図るため、教授会の機会を活用して、短期大学部生の悩み・相談の現状やその対応について、豊橋学生相談室、ならびに短大生の就職実績と指導状況について、キャリア支援課と意見・情報交換を行った。<br><br>［2018 年度 FD 活動」<br>1. これまで実施してきた全学的な授業評価アンケートに加えて、「基礎演習」、「発想・議論演習」、「卒業研究 I」、「卒業研究 II」において全学統一フォーマットの授業評価アンケートを実施する。<br>2. 初年次教育の支援及び短大での「学び」を充実させる目的から、必修科目である基礎演習において、図書館や大学記念館（東亜同文書院大学記念センター）、語学教育研究室（ランゲージカフエ）等のガイダンスを積極的に活用する。<br>3. 教育環境や学生生活の改善と向上を図るため、学生支援に関連している事務部門及びセンター等との連携を強化し、教授会の機会を活用して、短大生を取り巻く諸課題についての意見・情報交換等を行う。 |